

【配点】 ①・②・③ 各1点×24 ④①②・⑤①②・⑥① 各2点×7 ④⑥ 6点 その他各4点×14

1

13	9	5	1
絶好	資料	清潔	感心
14	10	6	2
てっそく	けいだい	ゆかげん	清算
15	11	7	3
決断	基準	再開	望む
16	12	8	4
門外漢	きしよう	みじたく	覚める

(※4「醒める」も可)

2

1
イ
2
エ
3
エ
4
ア

3

I
1
イ
2
ア
II
1
ア
2
ウ

4

1
エ
2
私
3
たち
4
には
5
イ
6
づ
7
動物
8
い
9
か

(完答)

5

6	森	を	背景	に	して	明	る	い	光	の	な	か	に
立	つ	二	頭	の	馬	と	そ	の	右	に	あ	る	二
の	ポ	プ	ラ	の	木	の	写	真	。				

(同意可)

1 a

エ

b

ア

c

イ

2

ア

3

3	仲	の	い	い	こ	う	す	け	が	い	な	く	な	っ	て
しま	い	い	さ	い	び	し	い	気	持	ち	。				

(同意可)

4

4
す
5
べ
6
て
7
手
8
紙
9
エ
10
ウ
11
イ

1

十一(画)

(「一」も可)

2

2	空	腹	を	満	た	す	た	め	や	健	康	の	た	め	に
食	べ	る	場	合	。										

(同意可)

3

A
オ
B
イ
C
キ

(A・C 完答)

D
カ
E
キ

(D・E 完答)

4

表
情
や
口
調

5

ウ

1 (漢字)

1と2は同音異義語の単元から、3と4は同訓異字の単元から、5と6はベーシックの漢字の問題から出題した。語句単元の見直しも日ごろから心がけておきたい。

2 (熟語の組み立て)

1「苦楽」は「苦しみと楽しみ」なので、イの反対の意味の漢字を組み合わせたものになる。2「着席」は「席に着くこと」なので、エの動作を表す漢字の下に「く」に「くを」にあたる漢字がきているものになる。3「決心」は「心を決めること」なので、エの動作を表す漢字の下に「く」に「くを」にあたる漢字がきているものになる。4「教育」は「教えることと育むこと」なので、アの意味が似ている漢字を組み合わせたものになる。

3 (類義語・対義語)

類義語や対義語は文章読解においても重要な知識となる。ふだんから意識して覚えるようにしてほしい。

4

- 1 解説文に「明るい光」とあるので、ア「かくれて」はちがう。イ「またたき」はこまかく点滅する様子なのでこれもちがう。ウ「ざらつき」では強すぎる。
- 2 「聞いているもの」なので「音」や「声」、「言葉」などが候補になる。「詩の中の」という指示を見落とさなければ、さがるのは難しくなかったはずである。
- 3 詩の最後の行は本来、「きつと あるのだ」となるはずである。
- 4 「見つけ」ではなく「見つけ」が正しい。
- 5 解説文の「……という気持ちは以前からなんとなく、わたくしの中にあつたのかもしれない」の部分ヒントになっている。
- 6 解説文八行目に「この詩ができたのは、まったく写真のおかげですが」と書いている。その写真はどんな写真だったのかを指定された形式や字数にあわせてまとめる。

5

- 1 a「静かに」は自立語で活用があり、言い切りの形が「だ」になる形容動詞である。b「近く」は自立語で活用があり、言い切りの形が「い」になる形容詞とまちがえやすいが、それだけで主語になることができる名詞である。形容詞「近い」から名詞に転じたものと考えられる。c「浮かべ」は自立語で活用があり、言い切りの形がウ段の音になる動詞である。
- 2 「とめど」は「とめるべきところ。際限。しまい」という意味で、多くの場合あとに「ない」がつく。
- 3 この穴はこうすけがいなくなってしまうことによるものである。では、こうすけは僕(さとる)にとつてどのような存在だったのか、そんなこうすけがいなくなったらどんな気持ちになるのか、と考えてほしい。
- 4 情景描写によって登場人物の心情を表現している。ここで僕(さとる)は、こうすけとのつながりが少しずつ弱まっていくのを感じて寂しさを覚えている。そんな気持ちを表している情景描写をさがしてほしい。
- 5 こうすけは僕(さとる)に何も告げずに故郷へ帰ってしまったので、僕(さとる)は「かくれが」にこうすけからの「手紙」でも置いてあるかもしれないと期待していた。手紙はなかったが、この「一匹の大きな魚(サツキマス)」はあきらかにこうすけが捕まえて、生けすに入れたものである。こうすけは何のつもりでサツキマスを生けすに入れたのかを考えれば、僕(さとる)への別れのことば(手紙)の代わりと考えられる。
- 6 離ればなれになって、こうすけとのつながりが弱まっていくなかで、このサツキマスは僕(さとる)にこうすけとのつながりを再び強く意識させたにちがいない。
- 7 こうすけからの手紙の代わりであるサツキマスを受けとったことで、こうすけとの別れを実感しているのである。
- 8 「ゆらりと」「ざらりと」「ぼろぼろ」「ばしやり」あるいは「きみどり色」「青い」「銀粉を散りばめたような」「黒目」「ブルー」「グリーン」などの表現に注目する。

6

- 1 「え」の部分は三画で書く。
- 2 「というの」から「だ」とある直後の文に注目しよう。さらに次の文も「また」とあるため、内容を答えに入れる必要がある。
- 3 AとCは同じ段落を読み進めていくと、「度を越したものは否定的に評価される」「程度は評価に直結する」とある。D・Eは直後の具体例に注目しよう。「濃厚」「まろやか」「爽やか」は「甘い」「辛い」のように味の特徴を述べているので一見記述的にみえるが、「まずいものに対しては通常使われない」ということは、「おいしい」のように食べたものに対する評価であると言える。
- 4 同じ段落の具体例に注目し、「笑顔」「口調」「顔を歪めた」がまとめられた表現を字数に合うようにさがそう。
- 5 アは、二段落目に「促された行動が必ず実現されるとは限らない」とあるため、「必ず実現される」が不適当である。イは、「辛い」は記述的であるため不適当である。エは、二段落目に「その場合(体に悪いので食べられない場合)でも、さらに味わい続けない気持ちがあることは確かだろう」とあるため不適当である。ウの内容は最後の段落にあった。

以上